

視聴者注目の”瞬間”を分析！ NHK大河ドラマ『鎌倉殿の13人』の第14回「都の義仲」

ご家庭に人体認識技術を搭載した機器を設置し、テレビスクリーンの「視られている量」を測るTVISION INSIGHTS株式会社（所在地：東京都千代田区、代表取締役社長 郡谷 康士、以下TVISION）は、2022年1月にスタートした、三谷幸喜さん脚本・小栗旬さん主演の『鎌倉殿の13人』を、毎放送回、視聴者がどのシーンに注目したのかを分析しています。

4月10日に放送された第14回「都の義仲」は、視聴者にどのように見られていたのでしょうか？

テレビの視聴者の様子を、1分毎の「TVISION推定視聴率」と、「テレビの前にいる人のうち、テレビ画面に視線を向けていた人の割合＝注目度※」のグラフで見ました。

※注目度とは？

テレビの前にいる人（滞在者）のうち、テレビ画面に視線を向けていた人（注視者）の割合を表します。シーンに注目している度合いがわかります。



用語解説 注目度

テレビの前にいる人のうち、テレビ画面に視線を向けていた人の割合です。

テレビのコンテンツに、注目している度合いがわかります。

TVISION
INSIGHTS

『鎌倉殿の13人』毎分の注視データで見る、視聴者が注目したシーンとは？

第14回は、先に平家を撃退して上洛した木曾義仲（青木崇高さん）と彼をライバル視する源頼朝（大泉洋さん）による源氏の棟梁をめぐる争いが描かれました。

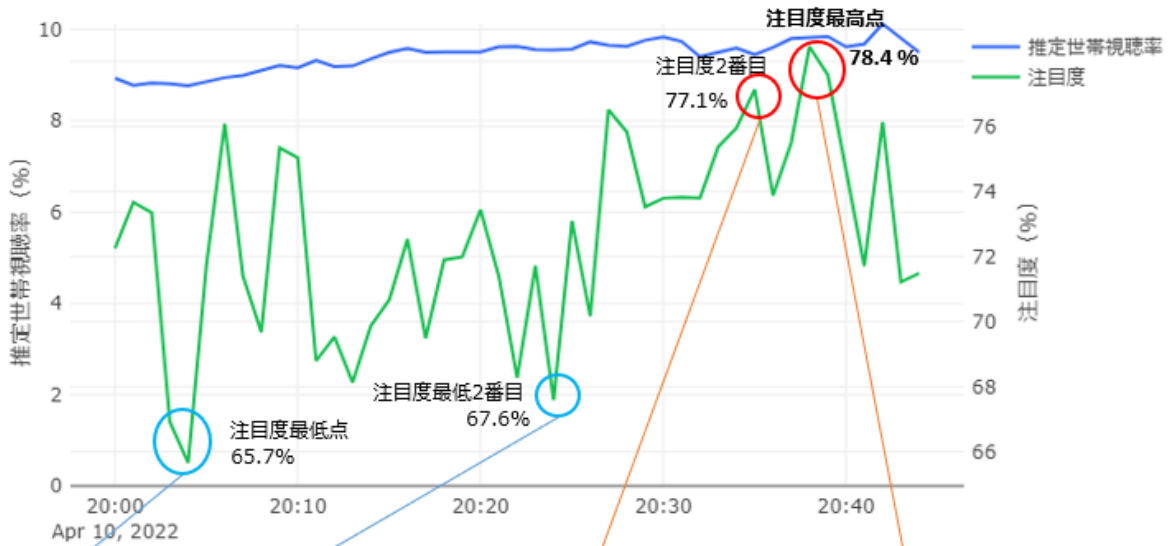
自らの嫡男・義高（市川染五郎さん）を鎌倉へと送った木曾義仲は、平家の追討軍を撃退して上洛します。敗れた平宗盛（小泉孝太郎さん）は、三種の神器とともに都を落ち延びます。義仲の活躍に焦る頼朝でしたが、義仲と後白河法皇（西田敏行さん）との関係が悪化すると、弟・義経（菅田将暉さん）を大将として派兵することを決断しました。しかし、利益のない戦に御家人たちは不満を募らせます。そんな中、義時（小栗旬さん）は。。。というストーリーでした。

ツイッターでは「#鎌倉殿の13人」が放送中から6週連続の世界1位になりました。ロッセの佐々木朗希投手が28年ぶりに達成した「完全試合」と1位を争っていましたが、終了間際の20時40分に1位となりました。また清盛（松平健さん）の孫である「安徳天皇」もトレンド入りしました。壇ノ浦の悲劇が迫っている中、安徳天皇の可愛すぎる顔が辛い、などがツイートされていました。

日付：2022年4月10日（日）放送

属性：個人全体

NHK『鎌倉殿の13人』第14回放送 毎分注目度推移



20:03-04
オープニング
のシーン

20:24 木曾義仲（青木崇高さん）が後白河法皇（西田敏行さん）に会うため屋敷に乗り込む。それを制御しようとした平知康（矢野俊博さん）を殴ってしまったため、後白河法皇の愛妾、丹後局（鈴木京香さん）から法皇は会わないので、下がりなさいと言われる。その後鎌倉屋敷のシーンに移り、救いを求めている法皇のために出陣したいという源頼朝（大泉洋さん）に対して、北条義時（小栗旬さん）、安達盛長（野添義弘さん）が今ではないと反論する。

20:35弓の稽古をしている頼朝に、源義経（菅田将輝さん）が出陣を報告するシーン。頼朝が「存分に腕を振るってまいれ」と激励すると、「兄上のために全身全霊を傾けて戦います」と答える。その後、頼朝の矢が的の中心を射抜くと、義経が腕前を褒めると頼朝がやってみるか矢を渡す。

20:38-39 出陣を前に、義経が源義高（市川染五郎さん）に彼が趣味で集めているというセミの抜け殻を贈り物として渡す。その出陣を見送っていた義高が義時に、「父の義仲は戦で負けることはないで義経が不憫だ」と話しながら、もらったセミの抜け殻を握りつぶす。シーンは変わり、頼朝への謀反を計画している板東武者の集まりに、梶原景時（中村獅童さん）と文覚（市川猿之助さん）が加わり喜ばれる。ところが、義時らが謀反の件を頼朝に伝えるかを検討しているところへ謀反の集まりに参加したかと思われた景時が現れる。

TVISION INSIGHTS調べ

最も注目されたのは終盤、20時38～39分で、注目度は78.4%でした。出陣を前にする義高に、義経が趣味で集めているセミの抜け殻を、贈り物として渡します。そのシーンから、謀反を計画している板東武者について、頼朝に伝えるべきかを義時らが相談しているところまでが注目されました。従順そうな義高が、義経にももらったセミの抜け殻を握りつぶす場面は印象深く、視聴者が惹きつけられたようです。また、頼朝への謀反を計画している板東武者の集まりに、梶原景時（中村獅童さん）が参加したと思いきや、状況を把握するための参加だったことがわかります。誰が敵で誰が味方なのか、緊迫した場面で注目を集めました。

注目度2番目のシーンは20時35分で、77.1%でした。弓の稽古をしている頼朝に、義経が出陣を報告するシーンでした。頼朝が「存分に腕を振るってまいれ」と激励すると、「兄上のために全身全霊を傾けて戦います」と答えました。その後、頼朝の矢が的の中心を射抜くと、

義経は頼朝の腕前を褒めます。それから、頼朝がやってみるか矢を渡しました。これが兄弟の最後の会話なのか？とネットでも話題になりました。

注目度が一番低かったシーンはオープニングでしたが、その次に低かったのは、20時24分で注目度は67.6%でした。義仲が後白河法皇に会うため屋敷に乗り込みますが、気性の粗さから平知康（矢柴俊博さん）を殴ってしまい、丹後局（鈴木京香さん）に追い払われるシーンでした。

※2021年の年間の、プライム帯（19-23時）におけるドラマジャンルの平均注目度は63%

<過去放送回の「鎌倉殿の13人」各回注目シーン分析はこちらをご覧ください>

<https://telescope.tvisioninsights.co.jp/summary-kamakura13/>

TVISIONでは、視聴者のテレビへ視線がどれだけ向けられたのか、テレビ番組では毎分、CMでは毎秒でデータを取得しております。今後も注目のテレビ番組やCMの分析を行って参ります。

<本件に関する問い合わせ先>

TVISION INSIGHTS株式会社 広報担当 佐野、峯島
東京都千代田区大手町1丁目6番1号大手町ビル6階
E-mail info@tvisioninsights.com
Tel（担当直通） 050-5468-2785

【TVISION INSIGHTS株式会社について】

TVISION INSIGHTS株式会社は人体認識技術によってテレビ番組・CMの視聴態勢データを取得し、BtoB向け視聴分析サービスを提供しています。

ご家庭のテレビに、TVISIONが独自に開発した人体認識技術を搭載した調査機器を設置し、調査参加者の視聴態勢を毎秒で自動的に取得。「誰がテレビの前において、きちんと見ているか」というTVISION独自のアテンションデータを広告主・広告会社・放送局など国内累計160社以上のクライアントにご活用いただいています。現在、国内では関東エリアの2,000世帯・関西エリア600世帯、地上波/MX/BSの全番組を計測しています。TVISIONでは「新しいデータによってメディアマーケットを圧倒的に進化させる」というミッションのもと、テレビの価値をアテンションデータによって顕在化しています。